



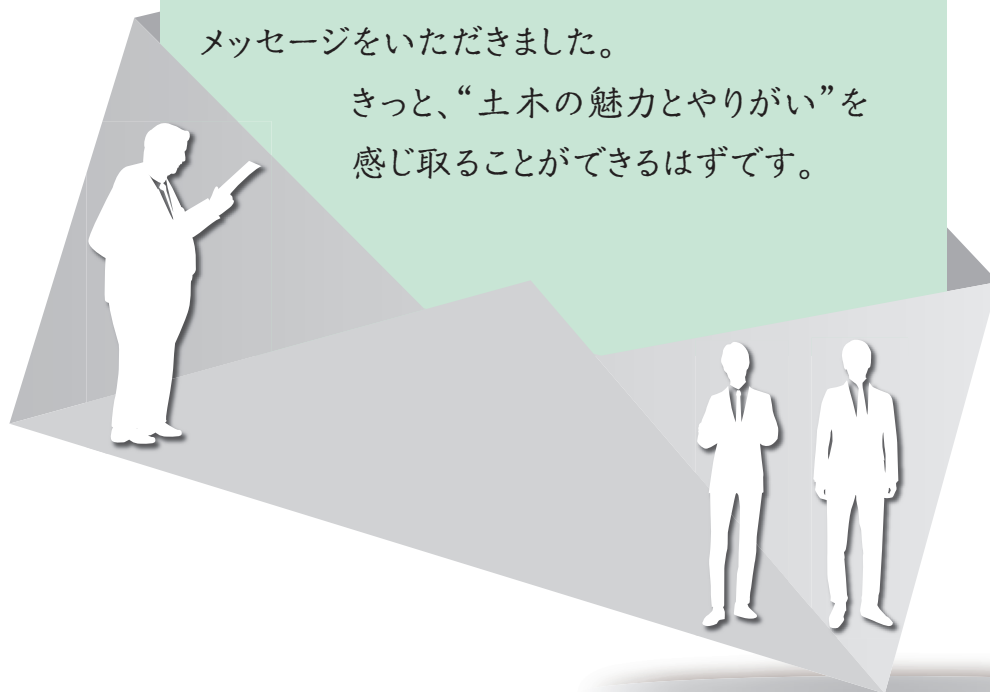
新入社員への手紙



新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。

社会人としての新しい人生がスタートし、心配や不安もある反面、希望と期待を胸に新たな一歩を踏み出された皆さんに、さまざまな経験を積んで活躍されている先輩方から、心のこもったメッセージをいただきました。

きっと、“土木の魅力とやりがい”を感じ取ることができるはずです。



- 聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥 4
草薙 史朗 鹿島建設株式会社 東京土木支店 土木総括環境管理者
- 仕事を楽しむ 5
黒木 孝文 五洋建設株式会社 東京土木支店 土木部専門部長
- 自分の考えをはっきり言える技術者 6
城古 雅典 前田建設工業株式会社 土木事業本部 営業推進部 営業推進第2グループチーム長

聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥

拝啓、陽春の候、新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。

今年は大変寒い冬を過ごし、各地で大雪の被害が報道され、少子超高齢社会の日本で働きの担い手確保が大きな社会問題となっている中、新たな社会人を建設業界にも迎えらるる明るい話題を大変うれしく思います。皆さんが早く社会に慣れ、一人前の技術者に成長できると思う、私の経験した「心構え」を手紙でお伝えします。

私が建設会社に就職したきっかけは、大学4年の夏の1ヶ月間の現場研修でした。現在の上越新幹線のトンネル現場で、元請け社員が発注者と日々打合せ・調整を行い、協力会社に作業指示を出して工事を進めている壮大な工事現場を体験したからです。日中は30℃を超える真夏Tシャツ1枚で十分過ごせる外気温の中で、工事現場（トンネルの中）は10℃以下と防寒着が必要な寒さで、更にトンネル内では総湧水量が毎分40m³も有りトンネル内が小川でした。大自然と闘いながら苦勞してトンネルを掘削して構造物を作り上げている工事現場は大変感動しました。

工事現場は一般の人では観ることができません。完成した鉄道トンネルは非常に多くの乗客を乗せた列車が毎日運行されていますが、一瞬で走り過ぎてしまうトンネルを「いつ?」「誰が?」「どのようにして建設したか?」などを考える人は全くいないと思います。しかし、出来上がった土木構造物は大変便利で長年利用され、社会の発展に大いに貢献しています。「土木技術者として満足できる仕事だ!」と思い建設会社に就職を決めました。

現場を希望して入社しましたので、直ぐに現場に配属されると期待していたのですが、希望が叶ったのは入社10年目でした。入社後は研究所で材料の開発研究・実験業務、設計部で設計業務を行い、多くのことを学んだ後28年間の10現場の施工に役立てられたと思います。入社後に山岳トンネルの現場を経験できませんでしたが、営業線の高架化工事・地下化工事、水害対策のシールドト

ンネル工事など、都市土木を経験しました。今でも初心の「ものづくり」を大切に考えています。新入社員の皆さんも「希望と異なる部署に配属」されても、まずは「自分のベストを尽くして」与えられた職務を遂行し「多くを学んで習得すること」をおすすめします。きっと将来役立つと思います。当然、初めての仕事で解らないことが沢山あると思います。一人で悩まずにまず「聞くこと」が大切です。考えて自分で調べることも重要ですが、考え悩み過ぎて「時間を浪費しないこと」、時間だけは取り戻せません。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」です。上司や先輩、現場では協力会社の職長や作業員にも、何でも聞いて早く理解して業務を合理的に遂行する、そして「期限を必ず守ること」を忘れないで下さいね。

もうひとつ、社会人も勉強は重要です。若い内に計画的に必要な資格を取得して下さいね。皆さんは二十歳を過ぎていると思います。私的にも計画（目標）を立てて楽しんで、早くご両親を安心させる事も大事ですよ。末筆ながら皆さんの今後のご活躍をお祈り申し上げます。

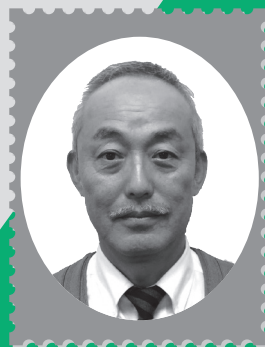
敬具

鹿島建設株式会社

東京土木支店

土木総括環境管理者

草 薙 史 朗



仕事を楽しむ

新入社員のみなさん入社おめでとうございます。いよいよ社会人となりこれからの期待や不安など様々な思いを巡らしていることだと思います。今回この手紙を書くにあたり自分が新入社員の頃はどうかと振り返ってみると毎日つらかったなぁと改めて思い出しました。当時は寮に帰っても現場の先輩と相部屋だったので、なおのこと生きた思いがしませんでした。働く環境は今と比べるとありませんが、いつの時代でも悪い部分があれば良い部分もあるものです。当時の事務所は職員も多く仕事的にはおおらかな面があったように思います。事務所内の雰囲気も良く飲み会も多くありました。当時の私にはそれがガス抜きになり明日の活力につながったものです。

昔話はここまでにして、今のみなさんに戻してみると、現場では分からないことばかりで何を質問すればいいのかさえ分からないかもしれません。ですが心配いりません、みんな通る道です。まずは臆せずなんでも聞きましょう。忙しいからといっていろいろと我慢していると長続きしないものです。遠慮せず公私ともにどんどん自分を出していきましょう。分からないことや意見を積極的に発言することで、先輩も自分のことを理解してくれ、身の丈に合った仕事を出してくれるようになるはずです。そんなコミュニケーションがとれて現場内での自分の立場が確立できれば、あとは怖いものなし。やがて協力会社の大先輩の方々から頼られる存在となり、やりがいと同時に仕事が非常に面白くなってきます。

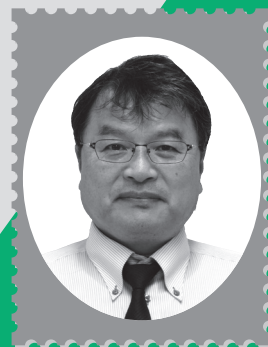
次に仕事に少しゆとりができたときに実践してもらいたいことがあります。自分が担当している工種の作業員や世話役の人数を毎日野帳や日報に書き留めていることと思いますがこれの振り返りを行ってみてもらいたいと思います。自分が担当していた工種が完成するまでに誰が何人必要だったのかということ。これを「歩掛^{（あひかり）}」といいます。この歩掛によってこの工事は毎日何人で作業すれば何日で終わるか、ということが分かるようになります。この情報をまとめると「工程表」が引けるようになります。

さらに作業員の単価を掛けると「費用」がでできます。この延長上に実行予算があるのです。まだそこまで気にすることはないですが、まずは自分の身の回りのわかりやすい工種で「歩掛」をまとめてみて下さい。まとめてみると同じものを造っても歩掛に違いがあることが分かります。そこがなぜだろうと振り返って考えてもらいたいところです。私たちは現地一品生産の建造物を築造しています。同じ構造物を築造しても条件により歩掛は随分と変わってきます。この違いを見分ける目が非常に大切で、経験工学といわれるゆえんと私は思っています。例えば鉄筋組立のとき経験豊富な先輩は太物鉄筋の多少、スラブ・壁、クレーン作業有無、構造物の形状などの条件を考慮して、過去の歩掛を根拠に工程表を引いているはずです。一朝一夕にできることはありませんが、皆さんが一つの現場をやりとげるころには、もうその工種では立派な経験者です。まずは、物づくりの楽しさに気づいていただくこと。それと皆さんがこれから経験する工事はすべて貴重な財産です。経験を自分の知識として取り込めば優れた技術者になれるはずです。みなさんがこれからの建設業界を支える技術者となれることを願っております。

五洋建設株式会社

東京土木支店
土木部専門部長

黒木 孝文



自分の考えをはっきり言える技術者

新入社員の皆様へ

この度は御入社おめでとうございます。様々な思いを胸に、また期待や不安を感じながら一日一日を過ごしていることと思います。私は今から33年前に前田建設工業に入社いたしました。新入社員の時の赴任先は広島県の日本道路公団（現NEXCO）の山陽自動車道のトンネル現場でした。生まれ育ったのは関西圏であり、大学も自宅通学であったため、慣れない土地での生活や、家族以外との生活に不安はありましたが、自分でお金を稼げる喜びと、やっと独り立ちができたという思いが強かったように思います。仕事に関しては、施工管理が主体でしたが、大学の授業とは全く違った内容であり、とても戸惑いがありました。しかしながら、先輩からのアドバイスや、共通仕様書や施工計画書などを読むことにより、やるべき仕事とは何かというのが少しずつ分かっていったように思います。当時の現場はKKD（経験・勘・度胸）で何とかするという風潮もありましたが、その後TQC（Total Quality Control：全社品質管理）が導入されたことで、ものごとが論理的に解釈されるようになったのではないかと思います。TQCのキーワードにQCDSEというものがあります。QはQuality（品質）、CはCost（原価）、DはDelivery（工程、工期）、SはSafety（安全）、EはEnvironment（環境）であり、「良いものを、より安く、より早く、安全に、そして環境にも配慮して」ものごとを進めていくといった考えです。そして、この考えは施工管理だけに当てはまる訳ではなく、調査、計画、設計、維持管理を行う際にも適用できるものだと思います。何か自分の仕事で困ったことが起こった時にQCDSEといった視点でものごとを考えてみれば解決策がみつかるのではないかと思います。

今の建設業では、労働者不足や急速な高齢化の問題を解決するため、生産性の向上を目指しており、ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）技術を使った様々な取組みが行われています。新社員の方々は、若

い労働者という立ち位置だけではなく、新しい知識や考えを持った技術者としても期待されているのではないかと思います。最初は分からないことがたくさんあると思いますが、単に先輩方にやり方を聞くだけではなく、「なぜそうしなければならないか」、「どのような基準を守らなくてはいけないのか」ということを調べたり考えたりしながら行動していけば、自然と技術者としての能力がついていくと思います。先輩方の経験はもちろん重要ですが、どうしてもものごとを安全に進めようとしてしまいます。一方若い方々は、経験が少ないが故に、いろいろな考え方が出来たり、評価も、客観的に、公平に出来たりするため、従来の経験によるやり方よりも、もっと良いやり方を見つけることができるのではないかと思います。今は若い技術者が少ないため、大事に育てて欲しい気持ちに加え、多少の失敗もフォローしなければならないという風潮があると思います。そこで、新社員の方々には、元気いっぱい、明るい笑顔で日々を送り、仕事上の話し合いでは、先輩たちにも自分の考えをはっきり言える技術者になって欲しいと思います。応援しています。

これからの皆さんに幸多かれ！と
祈っています。

前田建設工業株式会社

土木事業本部 営業推進部
営業推進第2グループチーム長

城 古 雅 典

